

今月のトピックス

- インフルエンザは再度増加しましたが、現在は減少傾向が見られています。
- インフルエンザ迅速診断用検査キットによる型別の集計ではほとんどが B 型です。
- 2008 年度の 12 月末現在の MR ワクチン接種率は、第 1 期 63.9%、第 2 期 63.5%、第 3 期 45.0%でした。対象者には早期の接種をお勧めください。

平成 21 年 2 月 16 日から 3 月 22 日まで(平成 21 年第 8 週から第 12 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 2 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

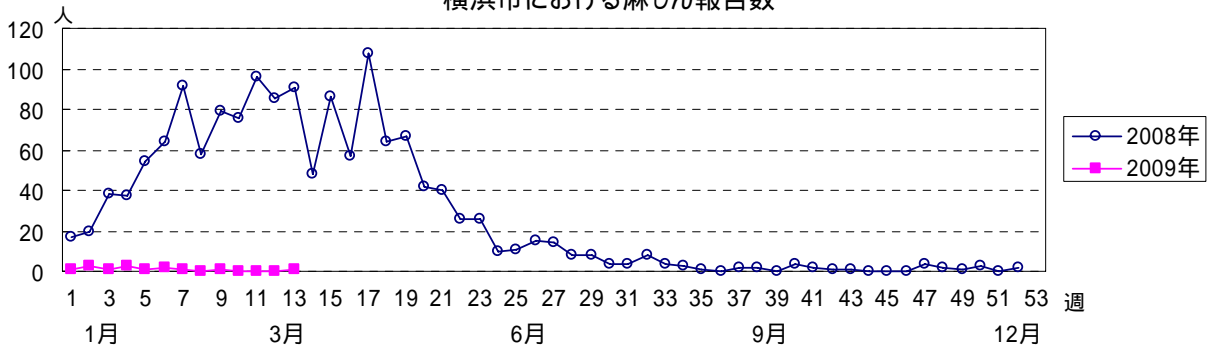
平成 21 年 週 - 月日対照表

第 8 週	2 月 16 ~ 22 日
第 9 週	2 月 23 ~ 3 月 1 日
第 10 週	3 月 2 ~ 8 日
第 11 週	3 月 9 ~ 15 日
第 12 週	3 月 16 ~ 22 日

全数把握の対象

- 1 **麻疹**: 2008 年から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 2009 年 3 月は 26 日現在で 1 例の報告があり、予防接種を 1 回受けていました。  
 ひと月で 100 例以上の報告があった 2008 年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻疹にかかっていない方は予防接種を 2 回受けることが大切です。

横浜市における麻疹報告数



横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します》

麻疹とともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風疹混合ワクチンによる 2 回接種の徹底

5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

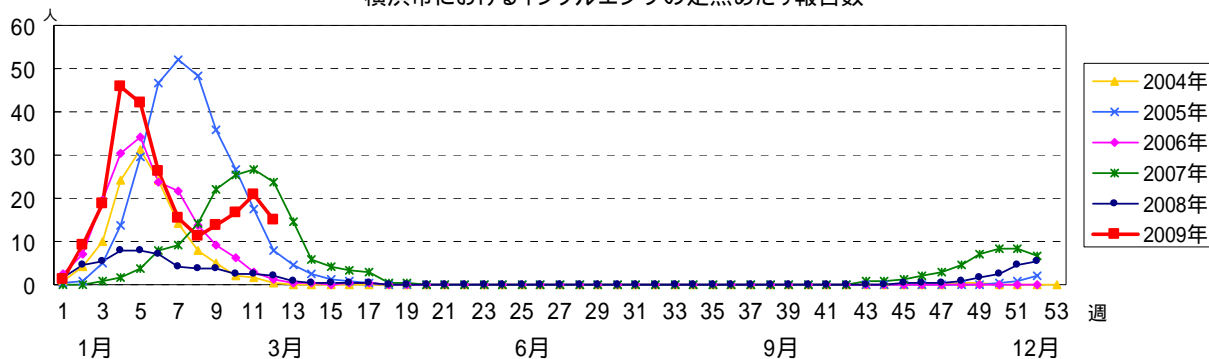
定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**: 今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 3 週に横浜市全域が注意報レベルの流行となり、第 4 週にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。

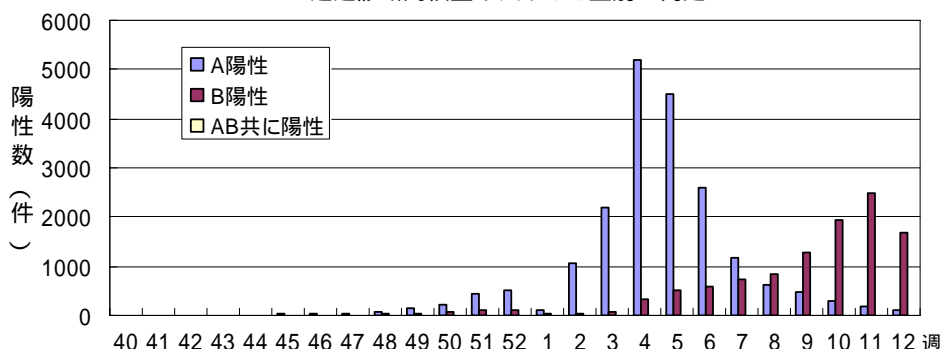
その後は減少しましたが、第 9 週から再び増加に転じ、第 11 週はさらに増加して定点あたり報告数 20.69 となりました。第 12 週は 14.94 と減少しています。行政区別では、磯子区(28.40)、緑区(23.00)、泉区(23.00)、港南区(22.25)、都筑区(20.63)、栄区(18.80)、青葉区(16.00)、西区(15.60)の順で多く報告されており、警報水準を超えている区はありません。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 15.53、川崎市は 13.40、全国は 15.63 でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 12 週に A 型 105 件、B 型 1673 件、A・B 共に陽性 11 件の報告があり、B 型が優勢です。

横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



また、2008 年第46週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて217件あり、その内訳は AH1(ソ連型)106件(48.8%)、AH3(香港型)44件(20.3%)、B型67件(30.9%)となっています。

学校等における集団かぜは2009年3月21日までに施設閉鎖12施設(12施設)、学年閉鎖20施設(21学年)、学級閉鎖141

施設(197学級)の報告がありました。

AH1(ソ連型)分離株は遺伝子解析を行った86件すべてからオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った32件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第49週には定点あたり2.52となりました。年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加し2009年第12週は1.81でした。行政区別では港北区(6.14)が高く、次いで保土ヶ谷区(3.60)、泉区(2.50)、瀬谷区(2.50)となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.36、川崎市は1.55、全国は2.32でした。
- 3 **感染性胃腸炎**: 昨年は、第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009年第12週は5.20となりましたが、ノロウイルスによる集団感染の報告もありますので注意が必要です。行政区別では瀬谷区(11.50)、緑区(11.00)、港北区(7.86)、泉区(7.75)、戸塚区(7.17)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は6.79、川崎市は6.94、全国は7.49と、いずれも横浜市より高い値です。
- 4 **水痘**: 例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009年第2週の定点あたり報告数は3.67と、過去5年間で最も高い値となりました。その後減少し、第12週は1.76と、現在は例年並みの水準で推移しています。例年、春にかけて流行しますので注意が必要です。行政区別では泉区(4.75)、瀬谷区(4.50)、都筑区(3.80)、緑区(2.67)、戸塚区(2.00)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.25、川崎市は1.24、全国は1.65でした。
- 5 **性感染症**: 性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。2月は、1月に比べて全体としては横ばいですが、淋菌感染症がやや増加しています。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で1例、淋菌感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例、尖圭コンジローマで1例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>